

1. 授業のねらい・概要

情報化社会と呼ばれ多種多様な情報があふれる現代、情報を選択し、意味するところをとらえ、意思決定するために、適切に活動する機能が要求される。多くの洞察と意思決定は、データに基づいて効果的に行われている。データを整理し、データの特徴を明確に表現するために、統計的方法は絶対に身に付けておくべきものである。

2. 授業の進め方

講義形式

3. 授業計画

1. データに親しむ	9. 数量指数
2. データを見る	10. 変化率
3. データの種類	11. 構成比
4. データの中心	12. 要因分解
5. データのばらつき	13. 相関分析
6. 母集団	14. 対数線形, 非線形
7. 単純指数, 平均指数	15. 応用
8. 物価指数	

4. 到達目標

1. 基本的な統計の概念と方法を理解し、説明することができるようになる。
2. 電卓を使用して、基本的な統計量を計算することができるようになる。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

授業前に教科書の該当する部分に通しておくこと。

6. 成績評価の方法・基準

定期試験の点数で評価する。平素の活動状況も評価の参考にする。

7. テキスト・参考文献

畑農鋭矢・水落正明, データ分析をマスターする 12 のレッスン, 有斐閣, 2017

8. 受講上の留意事項

履修者の学修時間が「学則が規定する学修時間の 90% (2 単位 90 時間×0.9=81 時間) に満たない」と科目担当者が判断した場合には、「本科目を履修した」といえないので、定期試験を受けられない。

ただし、授業外の学修時間は定期試験の結果から推定するので、「受験は暫定的に認めるが、その結果から学修時間不足と推定した場合には受験資格なしとみなす」ということもあり、その場合は再試験も受けられなくなる。

なお、授業時の学修時間は出席状況で計算するが、欠席の場合も「証明書等を完備した欠席届が、欠席後最初の授業出席時まで提出された場合」に限り、学修時間の一部を算入することもある。

詳細は 1 回目の授業時に説明するので出席すること。因みに、欠席届の期限内提出がなく欠席 5 回以上の場合には、定期試験を受けられないことが確定する。